


## 第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	公共交通環境改善事業			事業番号	32-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部	重田 浩光	都市政策課	飯田 裕一	

## 計 画 (Plan)

総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち	
		基本政策	9	快適で暮らしやすいまちづくり	
		施策展開の方向	15	安全で円滑な移動ができるまちをつくる	
		施策	32	地域公共交通の充実	
予算事業名	公共交通対策事務費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→		法令上の位置づけ	努力規定がある	
事業開始年度	開始年度	平成25年度	～	終了年度	—
関連法令等	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱				
国・県の計画等	移動等円滑化の促進に関する基本方針		計画期間	平成23年度～令和2年度	
関連個別計画	生活交通改善事業計画(バリアフリー化設備等整備事業)		計画期間	平成30年度～令和2年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	本格的な高齢社会を迎えつつある中、多くの市民の移動手段となる公共交通について、バリアフリー化の推進により、高齢者をはじめ誰もが円滑に移動できる交通環境の改善取組の重要性が高まっています。				
目的 (何をどうしたいのか)	子どもや高齢者、障がい者など、誰もが利用しやすいノンステップバスの導入を促進するとともに、公共交通の利用環境の向上やバス交通と鉄道交通の乗り継ぎ環境の改善を図ります。				
主な対象 (誰・何を対象に)	バス事業者及びバス利用者、市民等				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンステップバスの導入を促進するため、国との協調補助を実施します。</li> <li>・鉄道の利便性向上や駅施設等の改善、バリアフリー化を推進するため、神奈川県鉄道輸送力増強促進会議等を通して要望します。</li> <li>・伊勢原駅周辺整備に伴い、交通施設のバリアフリー化を推進します。</li> </ul>				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	国と連携したノンステップバスの導入促進	12台	14台	16台	
	鉄道の利便性向上等の促進	事業者要望	事業者要望	事業者要望	
目標	【指標名】	【現状値】	年度		
	ノンステップバスの導入台数(累計)	10台(平成29年度)	平成30年度	令和元年度	令和2年度
			12台	14台	16台


 事業実施 (Do)

## 事業実施 (D○)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)	バス事業者と協調し、事業者の車両入替計画と市のノンステップバス導入促進事業計画の整合を図りながら、引き続き、ノンステップバスの導入を促進していきます。 鉄道事業者に対し、県鉄道輸送力増強促進会議などを通じて、特急ロマンスカーのさらなる増発や伊勢原駅ホーム上りエスカレーターを設置などの要請を引き続き行っていきます。				
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	<input checked="" type="checkbox"/> すべて直接実施 <input type="checkbox"/> 左記以外				
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b>		
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>		
	<input type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b>		
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>			
		<b>平成30年度</b>	<b>令和元年度</b>	<b>令和2年度</b>	
	国と連携したノンステップバスの導入促進	継続実施 (12台)	継続実施 (14台)	継続実施 (14台)	
	鉄道の利便性向上等の促進	事業者要望	事業者要望	事業者要望	
	伊勢原駅周辺整備に伴う交通バリアフリーの推進	—	—	—	
<b>実施した取組の内容</b>	・バス車両の更新時期が見直され、ノンステップバスの保有台数が維持されるよう努めました。 ・神奈川県鉄道輸送力増強促進会議を通じて、鉄道の利便性や安全性向上に関する要望活動を行いました。				
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>年度</b>			
	<b>【現状値】</b>	<b>平成30年度</b>	<b>令和元年度</b>	<b>令和2年度</b>	
	ノンステップバスの導入台数 (累計)	10台 (平成29年度)	12台	14台	14台

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績			
	<b>事業費合計 (a)</b>			3,007	千円		3,007	千円		157	千円		157	千円
内訳	国県支出金 ①		0	千円		0	千円		0	千円		0	千円	
	地方債 ②		0	千円		0	千円		0	千円		0	千円	
	その他特財 ③		0	千円		0	千円		0	千円		0	千円	
	一般財源 (a)-①-②-③		3,007	千円		3,007	千円		3,007	千円		157	千円	
<b>国県支出金の内容</b>														
その他特財の内容	受益者負担		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		前回の改定時期									
	その他													
人件費	正規職員		0.1	人	851	千円	0.1	人	870	千円	0.1	人	860	千円
	その他の職員		0	人	0	千円	0	人	0	千円	0.1	人	266	千円
	人件費合計 (b)		0.1	人	851	千円	0.1	人	870	千円	0.2	人	1,126	千円
<b>トータルコスト (a)+(b)</b>			3,858	千円		3,877	千円		1,283	千円		1,283	千円	
単位当たりコスト	対象数	定義	市民	単位		市民	単位		市民	単位		市民	単位	
		対象数	102,416	人		102,248	人		102,046	人		102,046	人	
	総事業費 / 対象数		38	円		38	円		13	円		13	円	

評 価 (Check)			
<b>進捗状況</b> [選択・記入]	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	<b>左記判断理由</b> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、バス車両の更新時期が見直される中で、ノンステップバスの保有台数の維持が図られました。神奈川県鉄道輸送力促進会議などを通じて、鉄道の利便性及び安全性の向上について要望活動を実施しました。
<b>実施水準</b> [選択・記入]	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	<b>他都市の事業内容等</b> 近隣市と同水準で計画的にノンステップバスの導入を促進しています。引き続き、バス事業者と協調しながら、計画的に導入を進めていきます。
<b>有効性</b> [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	<b>左記判断理由</b> 誰もが利用しやすいノンステップバスの導入により、公共交通機関の利用環境の改善と市民の移動の円滑化が図られています。継続的な要望により、伊勢原駅に停車する特急ロマンスカーや快速急行が増発されています。
<b>効率性</b> [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	<b>左記判断理由</b> バス事業者と協調し、国の補助制度を活用することで、効率的効果的にノンステップバスの導入を進めています。鉄道の利便性及び安全性の向上について、県鉄道輸送力増強促進会議などを通じて、効率的に要請しています。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)	
<b>事業推進上の課題</b>	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、事業者によるノンステップバス等の設備投資の優先順位を踏まえながら、計画的に公共交通の利用環境の改善と市民の移動の円滑化を図っていく必要があります。市民や観光客の利便性向上を図るため、特急ロマンスカーの停車本数の増加やホーム上りエスカレーターの設置など、更なる鉄道事業者との連携や鉄道輸送力増強に向けた取り組みを要請する必要があります。
<b>令和3年度の取組方針</b>	令和2年度に見直された移動等円滑化の促進に関する基本方針において、ノンステップバス導入率を約80%とする目標が示されたところです。こうしたことを受け、引き続き、国と協調したノンステップバスの導入を促進していきます。鉄道事業者に対し、県鉄道輸送力増強促進会議などを通じて、特急ロマンスカーの停車本数の増加や伊勢原駅ホーム上りエスカレーターの設置などの要請を引き続き行っていきます。
<b>所管部長による総評</b>	少子高齢・人口減少社会が本格化していく中で、高齢者や障がい者、子育て世代など、誰もが安心して利用できる交通環境づくりを進めていくことが必要となります。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公共交通を取り巻く環境は大変厳しい状況にありますが、地域公共交通網形成計画に基づき、様々な主体との連携・協働により、公共交通の安全性や利便性を向上する取組を推進していく必要があります。